

# 活動レポート

## 道東技術士会

文責：道東技術士会幹事 上野博司

### 第66回総会・講演会を開催

#### 1. はじめに

道東技術士会では例年、5月または6月に釧路、12月に帯広で総会を開催しています。

今回の活動レポートは、昨年12月に開催した第66回総会と講演会について報告いたします。

#### 2. 第66回総会

○日 時：平成24年12月7日(金)午後6時～

○場 所：帯広ワシントンホテル

○出席者：28名(技術士22名、技術士補6名)

講演会に続いて、平成24年度第2回総会を開催しました。

冒頭、工藤代表幹事は、十勝川などの豊富な水量により、十勝の農業は日本の食糧自給率の向上に貢献しているが、今後は伏流水などの利活用についても検討していく必要がある。また、日本は災害に弱いいため、災害に対するバックアップ機能も必要であり、技術士会がこの点でどのように貢献していけるかを検討する必要がある、と挨拶しました。



写真-1 工藤代表幹事

#### 3. 講演会

第66回総会にあわせ、CPD(継続教育)として講演会を行いました。

○演題：十勝が担うバックアップ機能

○講師：帯広開発建設部長 大内 幸則 技術士  
北海道が平成24年3月にまとめた「北海道バックアップ拠点構想概要」では、北海道 十勝が担うバックアップ機能として、食料・水・エネルギーの安定供給が位置づけられており、今回の講演ではそれぞれの項目について説明していただきました。



写真-2 講師の大内技術士

##### (1)十勝が担うバックアップ機能

###### ①食の安定供給

畑作酪農を主体とする大規模農業を展開、日本有数の食糧基地である。

フードバレーとかちを合い言葉に、農水産のみならず食品加工、食を売りとする観光業を振興。

食糧自給率(カロリーベース)は、1,100%、約400万人分の食料を生産している。

## ②水の安定供給

十勝川の水資源賦存量の資産によれば、供給余力は現使用量の1.5倍の1,803千m<sup>3</sup>である。

水質は良好で、ペットボトル水として製造販売されているほか、各種食品製造に活用されている。

## ③エネルギーの安定供給

土地条件、気象条件、社会・経済条件から、再生可能エネルギーが豊富に賦存し、その利活用に向けた様々な取り組みを実施している。

特に、水力発電は盛んであり、管内の電力需要のほぼ9割の供給能力を有している。

今後は、小水力発電、家畜ふん尿を主体とするバイオマスや雪氷冷熱の利用推進が見込まれる。



写真-3 講演会風景

## (2) エネルギー政策の近年の動向

- ・政府は平成24年9月に革新的エネルギー・環境戦略をまとめたが、新たなエネルギー基本計画はまとまっていない。
- ・日本版FTAがスタートし、太陽光発電が急激に増加しており、送電線容量不足が課題となる。
- ・バイオマス事業化戦略より、バイオマス産業都市の構築を十勝19市町村全体で進める動きがある。

## (3) 今後に向けた取組み

再生可能エネルギーの普及に向けた取組みは、以下のようなものが考えられる。

- ・小水力発電の利用促進
- ・バイオガス利用促進

- ・雪氷冷熱の利用促進
- ・送電線容量の確保と計画的な利用
- ・スマートビレッジの推進

十勝管内は再生可能エネルギーが集積しており、農水産物の生産、加工、流通に利活用する事で、環境に優しい技術で生産された農産物として付加価値が生じ、雇用や産業振興及び地域活性化に寄与するものと考えられる。

## 4. 懇親会

講演会後は、萬技術士の乾杯の音頭で懇親会に入りました。

皆さん、近況について報告しあうなど、和やかに歓談しました。

会の最後は、当会副代表幹事の紅葉技術士の万歳で締めました。

## 5. おわりに

当会では今後とも、地域で活躍されている研究者や専門家をお招きして、講演会や現場見学会などを開催していきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士会の活動レポートとさせていただきます。